

「バクマンとラグビー日本代表と進撃の巨人」の関係

ご無沙汰しておりました！早いもので今年もあと数日限りです。あっという間に過ぎ去った仕事漬けの1年でした！ブログは1年ぶりですね。塩漬けしてました(笑)



<https://www.youtube.com/watch?v=AjuyrRTqfKE>

映画「バクマン。」を見ました。少年ジャンプ連載に挑戦する二人の少年の物語です。少年ジャンプと言えば「男一匹ガキ大将」「アストロ球団」「包丁人味平」「プレイボール」などなど私は完全に幼いころに洗脳されていますので、今でも発想がこのころのままです(笑)。少年ジャンプには三原則というのがあって「友情・努力・勝利」の3つの中のどれか一つは必ず物語のテーマとして入れなければならないという編集方針があります。日本の少年(おじさん)たちはもう何十年も毎週毎週このテーマを刷り込まれて育っているので、戦後GHQが日本人を洗脳したとよく言われますが、1番強烈に洗脳したのは集英社だと思います。

大体、ヒットするストーリーは決まっています。

平凡なあるいは少し劣等感を持つ優しい主人公が、師や友やライバルや悪との出会いを通して自分に目覚め、努力して成長し、ライバル(または師)によって苦境に落とされ、優しさを捨てその中で必殺技をみだし、激戦の末ライバルを倒し、その後、強大で憎むべきライバル(または師)だと思っていたやつも実はいいやつだったという平凡で優しい日常に戻っていく物語です。ですから、日本人を鍛えるならこのストーリー通りに鍛えていくと最強(スーパーサイヤ人)になります。

今年、少年漫画そのままに日本人を鍛えた名將がいました。

ラグビー日本代表ヘッドコーチの**エディー・ジョーンズ**さんです。



2011年12月にヘッドコーチに**就任(ご縁)**してから徹底的にそして重層的に日本代表の強化に取り組みました。

①まず最初にしたことは、選手の**マインドセット(考え方の枠組み)**を変える取り組みでした。南半球やヨーロッパの選手の圧倒的な体格の前になすすべなく敗れ去る試合を繰り返す中で、勝てないまでも善戦すれば良いという風潮が選手の中で蔓延していた。また、どれだけ努力したらどうなるというイメージも描けず、自分たちの現在地点が分かっていなかった。そこに世界的に有名で実績のあるコーチであるエディーが「2015年のワールドカップで世界トップ10(後でトップ8に変更)を目指す。そのためになすべきことはコレ！」と名將が説得力を持って語ることで選手の中の確信ははくとも明確な目的地(新宝島)ができた。

<https://www.youtube.com/watch?v=LlIZCmETvsY>

②日本の選手に1番足りないものは「**自分たちを信じる力**」だと感じ、信じさせるために世界一厳しい練習を課し、実際、「ワラビーズ(オーストラリア代表)なら全員逃げ出す」という表現を使って日本人の負けん気と真面目さを刺激し鍛え上げた。

③8位~15位くらいのランクの国と対戦し勝利することで、一歩ずつ目標に近づいている**マイルストーン(試金石)**を作っていた。マインドと練習と現実の試合結果をセットにして進化を見える化して「信じる力」を固定化していった。

④体格で劣る日本人の強みは「すばやさ」「重心の低さ」「真面目さ」「高い規律」「冷静さ」「パス」。長所を伸ばす「JAPNA WA Y」を確立していった。

⑤体重で不利なスクラム、身長で不利なラインアウト、苦手なプレイに世界一のコーチを招へいして短所をも強みに変えて行った。タックルの練習には総合格闘家の高阪剛さんの指導を仰いだ。

⑥徹底した食事改善とウエイトトレーニングで肉体改造し、最後の20分から走ってアタックできる世界一のフィットネスを作った。

⑦ワールドカップで使用するスタジアムの下見、練習試合、当日のレフェリーのレフェリングの分析、中3日での試合克服のための強行遠征、選手が自分で考え行動するチーム作り、試合には出れないがチームに貢献できる選手の選考、自ら勇気をもって行動で示せるキャプテンの起用。

できる準備はすべて100%用意周到に準備する必殺の凡事徹底さがあった。



↑↑

<https://www.youtube.com/watch?v=vJAmkiwxw3g>

もうほとんど少年漫画の世界に入ってますね。南アフリカ戦の勝利の瞬間はもう何度VTRで見ても涙がちょちょぎれますね。この後、ほかのスポーツの何を見ても安易で物足りなくなっていました。(特に小久保JAPAN)



少年漫画の三原則は「友情、努力、勝利」ですが、もう一つ深く埋め込まれている要素があります。

「ジャイアントキリング(世界を驚かそう!)」

です。脚本の最後の方にこの要素が組み込まれているといつまでもワクワクしながら読み続けることができます。幼いころからずっと、少年漫画で刷り込まれてきたジャイアントキリングのワクワク感が農業、観光、エネルギー、自動車、航空宇宙、医療、ノーベル賞、スポーツ、オリンピック、様々な分野で日本人の原動力になっているような気がします。

「縁」があって「夢」ができ、「目標」を設定して、「自分達の立ち位置」が大体わかって、「目標までの距離感」が掴めて、「何をすればその距離が縮まるか」を知って、それを坦々と実行することで「小さな結果」が出て、うれしくなってがむしゃらに努力して、何となくじわじわと「夢」に近づいていっている「手応え」を感じ、「よっしゃ！ いっちゃやったるで！」というワクワク感を全員が秘めている。

そんな充実した**幸せな**2016年にしたいですね。御安全に！ 羽原篤史

